



## 日本はどうしなければなら ないか、一緒に考えてほしい

横田早紀江

皆様、こんにちは。今日で200回目になる祈り会にお集いいただき、ありがとうございます。どんどん世の中は移り変わっていきませんが、私には、子どもたちが「まだ助けてもらえないのですか」と言って待っている姿しか思い浮かべられません。ほんともう、どうしたら助けてあげられるのか、身代わりでよいなら、私が行きますという思いになっているこの頃です。

拉致事件は、なんという展開をしてきたのでしょうか。北朝鮮、中国、韓国、アメリカ…人間の欲というか心根というか、そのようなものがむき出しになっていくのを見せられました。ただ、めぐみを救いたい、拉致された人々を早く帰国させたいという思いだけで立ち上がってきたことですが、(長い経過の中で)世のさまざまなことがあらわにされてきたのを深く感じています。

いつになったらめぐみに会えるのだろうと思ひながら、主人は半年前に天に召されましたけど、今も写真の中からほほえみかけ、私たちの生活を見守ってくれています。

最近、ちょっと急いで歩いたりすると、マスクをしているせいもあるのか、息切れがします。酸素が足

りなくてハアハア肩で息をする感じで、しばらく空気を深く吸わないと元に戻らないのです。長いお話をすると、息切れして、思うように話ができなくなっているの、最近講演会も控えるようになりました。老化であちこちがちょっとずつ弱ってきて、「気をつけてくださいよ」と言われます。つまづかないように、弱っているところが悪くなっていかないように気をつけながら、何とか頑張っています。

\*

43年かかって、残酷な誘拐・人質という犯罪を国家ぐるみでやってきたことを、ようやく、多くの人たちにわかっていただけましたが、それでもまだ、解決に向かって動き出せていません。その中であって、そのことがめぐみや被害者たちだけの問題ではなくて、日本の国が今まで何をしていたのかという問題まで、私たちはいつも心に覚えています。報道をしてくださる方も、そのところを直視していただいて、感傷的な「悲しかった」「その時はどんな思いだった」といったことは、もう何十年も通ってきたことで、取材も受けてきましたので、もっと根



本的な「日本がどうしなければならぬか」「このままでよいのか」ということを一緒に考えていただき、報道していただくことがありがたいと思っています。

何とかして帰国だけは実現してほしい、という思いから先日、菅首相にお手紙を出してお願いをしました。「今チャンスですから、力を合わせて、積極的に動いてください」と。私たち家族は、何をどこまでしたらよいかわからない状況ですが、たくさんの方に助けていただき、祈っていただいて感謝しています。祈り会が用意して下さった「横田めぐみさんの救いと帰還のための31日間の祈り」(Believe制作)に従って毎日祈り、平安を頂いています。神様の御腕の中にあることのすばらしさを感じながら、今日も過ごしています。

(2020年11月19日第200回祈り会)